

浪江町は、下記①～⑨のとおり**原子力事故災害地域の中でも特に複雑な事情を抱えており、町民は将来不安を増大させている。**

- ① 事故時に情報が届かなかったこと等の混乱から、**他避難町村に比べて県内外に広域分散避難をしており、コミュニティの維持・再生が非常に困難**である。このため孤立感が強い町民が多い。



別紙資料 P5 「町村別避難状況表」

- ② 全市町村における**帰還困難区域の総面積の53%以上が浪江町**であり、その面積は町の総面積の8割以上を占めていることで、放射線健康不安が大きく帰還をためらう町民の声が多い。



別紙資料 P7 「帰還困難区域総面積に対する町村別割合」
別紙資料 P8～9 「町村別区域再編後の人口・面積」

- ③ 町の財政は、原発立地町に比べ交付金や固定資産税の割合が極端に低く、地方交付税に頼らざるを得ない状況にある。また、他町村に比べて**市町村民税の割合が高く、町民が帰還しなければ町の財政は成り立たない**状況にあり、将来の町の財政を不安視する声が多い。



別紙資料 P10～11 「町村別歳入決算状況(平成21年度)」

- ④ 避難指示解除準備区域、居住制限区域の**除染の進捗状況が低く、特に宅地・農地の除染の遅れから、健康不安や風評被害により帰還をためらう町民が多い。**



別紙資料 P13 「国直轄除染の進捗状況」

- ⑤ 上水道は2行政区で通水済であり、**上水道の安全は確認されているものの**、開栓申し込みは1割程度に留まっている。**町民の水への不安は払しょくされていない。**



別紙資料 P15 「復興の歩み(上水道、JRの復旧)」

- ⑥ 町内での再開事業者のうち、小売業はガソリンスタンド3社・コンビニエンスストア1社に留まり、町民が帰還しなければ再開は困難との声大きい。一方、**生活に密着する小売業・サービス業が再開しなければ日常生活に不安があると訴える町民の声が多い。**



別紙資料 P17 「再開事業所位置図」

- ⑦ 町民の努力により**農作物の実証栽培等**も進み復興の可視化を担っているが、**隣接して除染廃棄物の仮置き場が設置**されている。**復興に期待しながらも、風評被害等の不安を抱え複雑な心境**を訴える町民は多い。



別紙資料 P19 「保全農地と仮置き場」

- ⑧ 広域的な分散避難の影響により、**再開した町立学校における児童・生徒数の在籍率は他避難町村と比較しても低い**。避難先の学校に慣れた生活をおくる児童・生徒の帰還は難しく、町の将来を担う**子育て世代の帰還も困難**になっている。



別紙資料 P21 「小中学校・在籍数」

- ⑨ 直近の**帰還意向調査結果**は、「すぐ戻る」「戻らない」は横ばいである一方、「今はまだ判断できない」が前回より約7ポイント**増加した**。復興の可視化等から**帰還への期待もあるが、不安も拭えない町民の複雑な心境**が結果の推移から読み取れる。



別紙資料 P23 「帰還意向調査の推移」

浪江町の復興と現状

平成28年1月
福島県浪江町

ふるさと浪江町

海と山と川に囲まれ、自然に恵まれたまち
歴史と伝統を大切にするまち
資源を生かした、にぎわいのあるまち

震災時人口	21,434人 (このほか外国人108人)
世帯数	7,671世帯
面積	223.14km ²



東日本大震災の被害

○ 震度6強の揺れと15メートルを超える津波

- 6平方キロメートルが浸水
- 全壊家屋651戸（流失586戸、地震65戸）
- 約1,000事業所が被災
- 死者182人（うち行方不明31人、家屋倒壊による圧死は1人）



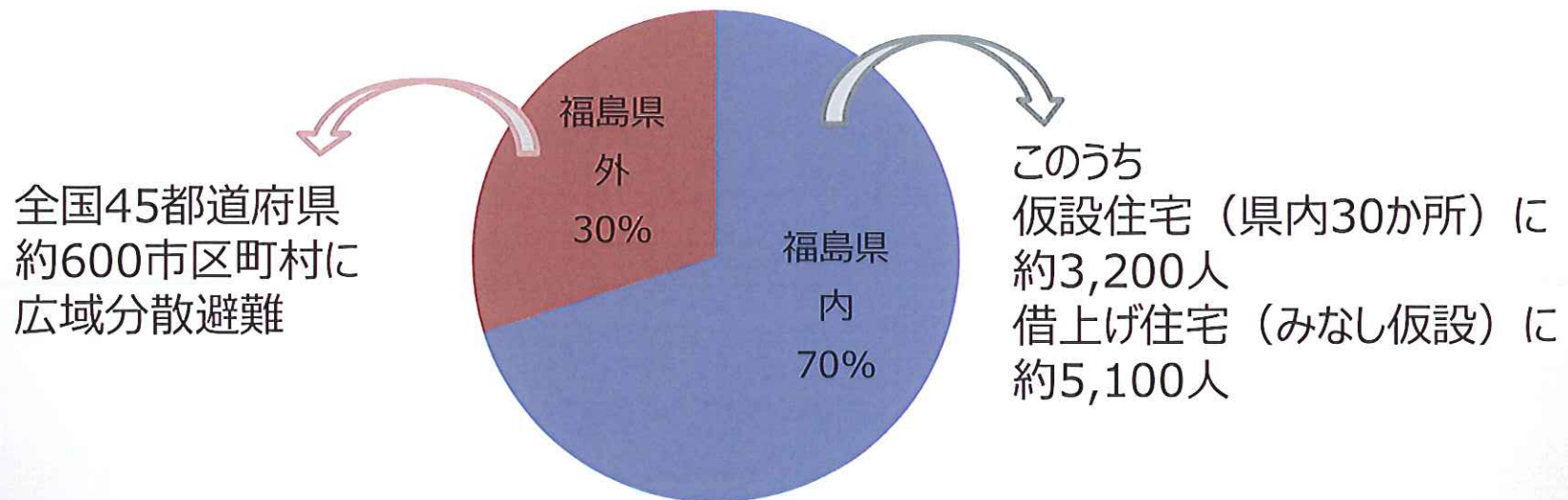
東日本大震災の被害

○ 東京電力福島第一原子力発電所の事故

- 町内全域21,000人超の町民がすべて避難対象となり、現在も避難指示が継続
- 避難先を転々、役場機能も1年半で4回移動
- 長引く避難生活による震災関連死378名

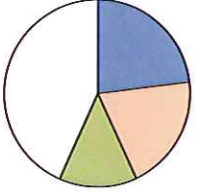
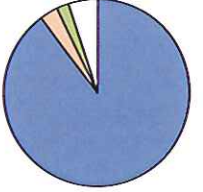
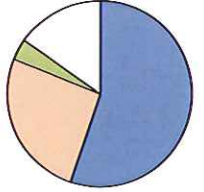
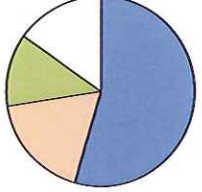
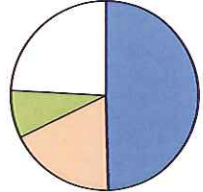
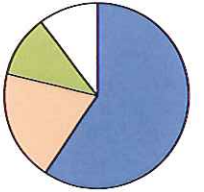


町民の避難先



町村別避難状況表

(単位：人、%)

	浪江町			楢葉町			富岡町			大熊町			双葉町			葛尾村		
	H27.10.31現在			H27.8.31現在			H27.10.1現在			H27.11.1現在			H27.11.1現在			H27.10.1現在		
全体		20,954			7,368			15,170			10,773			6,984			1,477	
県外避難		6,431	30.7		975	13.2		4,315	28.4		2,571	23.9		2,934	42.0		97	6.6
県内避難		14,523	69.3		6,393	86.8		10,855	71.6		8,202	76.1		4,050	58.0		1,380	93.4
県内避難先 内訳 (上位3市町村 及びその他)	福島市	3,344	23.0	いわき市	5,738	89.8	いわき市	5,984	55.1	いわき市	4,460	54.4	いわき市	2,008	49.6	三春町	820	59.4
	いわき市	2,921	20.1	会津美里町	203	3.2	郡山市	2,820	26.0	会津若松市	1,489	18.2	郡山市	735	18.1	郡山市	268	19.4
	二本松市	1,957	13.5	郡山市	134	2.1	福島市	398	3.7	郡山市	1,011	12.3	福島市	331	8.2	田村市	149	10.8
	その他	6,301	43.4	その他	318	5.0	その他	1,653	15.2	その他	1,242	15.1	その他	976	24.1	その他	143	10.4
	(45市町村に分散)			(25市町村に分散)			(40市町村に分散)			(42市町村に分散)			(26市町村他に分散)			(16市町村に分散)		
県内避難先 のグラフ	 ■ 福島市 ■ いわき市 ■ 二本松市 □ その他			 ■ いわき市 ■ 会津美里町 ■ 郡山市 □ その他			 ■ いわき市 ■ 郡山市 ■ 福島市 □ その他			 ■ いわき市 ■ 会津若松市 ■ 郡山市 □ その他			 ■ いわき市 ■ 郡山市 ■ 福島市 □ その他			 ■ 三春町 ■ 郡山市 ■ 田村市 □ その他		

浪江町は全国に広域的に分散して避難

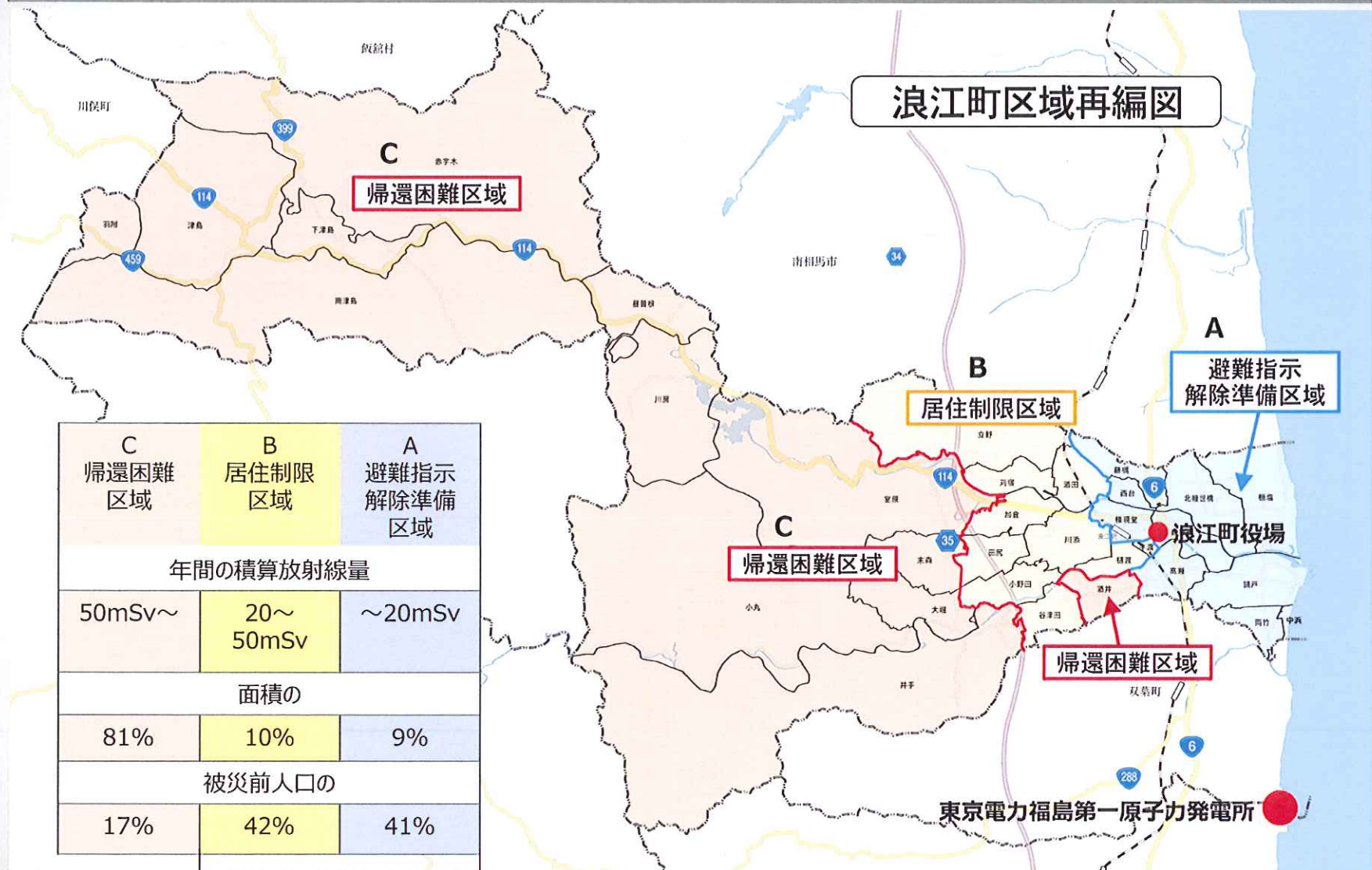
+

県内においても分散避難している(他町村は比較的まとまって避難している)

=

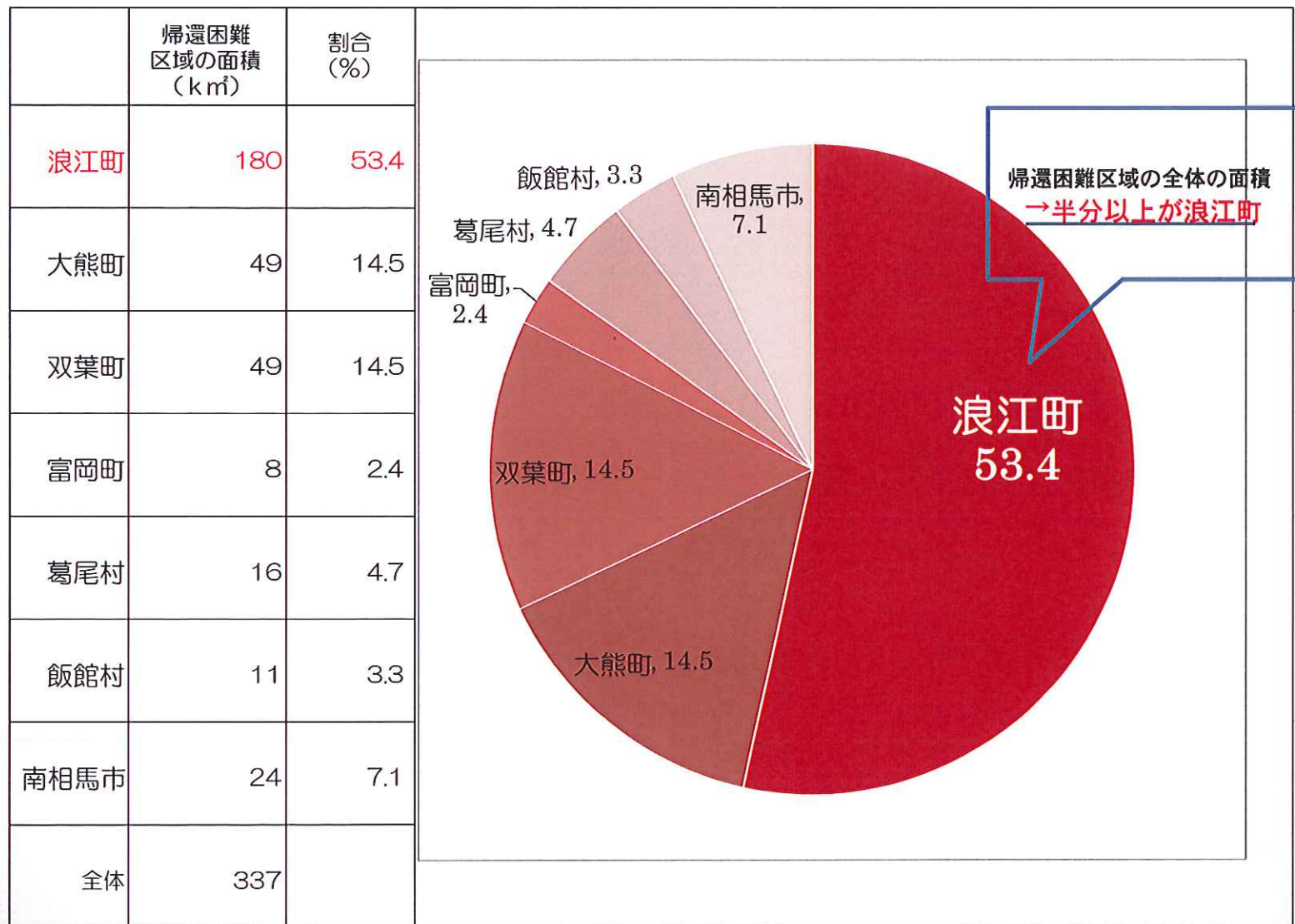
コミュニティの維持・再生が困難

放射線量による区域指定（平成25年4月～現在）



日中の立入りは可能

帰還困難区域総面積に対する町村別割合



町村別区域再編後の人口・面積（H25.10.1内閣府作成資料より抜粋）

＜区域の人口と面積＞
 帰還可能なエリアの人口は多いが帰還困難区域の面積が大きい
 →不安が増大し帰還をためらう

解除準備区域の30%は津波被災地

		浪江町		楢葉町		富岡町	
		人口	割合	人口	割合	人口	割合
人口	全体	19,505人		7,575人		14,413人	
	解除準備区域	7,902	40.5%	7,525	99.3%	1,319	9.2%
	居住制限区域	8,260	42.3%	0	0.0%	8,821	61.2%
	帰還困難区域	3,343	17.1%	0	0.0%	4,273	29.6%
	区域対象外	0	0.0%	50	0.7%	0	0.0%
面積	区域面積の割合グラフ						
	総面積	224km ²		103km ²		68km ²	
	解除準備区域	21	9.4%	86	83.5%	25	36.8%
	居住制限区域	23	10.3%	0	0.0%	35	51.5%
	帰還困難区域	180	80.4%	0	0.0%	8	11.8%
	区域対象外	0	0.0%	17	16.5%	0	0.0%
面積	津波被災地面積	6	2.7%	3	2.9%	1	1.5%
	区域面積の割合グラフ						

町村別区域再編後の人口・面積（H25.10.1内閣府作成資料より抜粋）

人口		大熊町		双葉町		葛尾村	
	全体	10,956人		6,492人		1,511人	
	解除準備区域	23	0.2%	255	3.9%	1,329	88.0%
	居住制限区域	362	3.3%	0	0.0%	64	4.2%
	帰還困難区域	10,571	96.5%	6,237	96.1%	118	7.8%
	区域対象外	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
面積	区域面積の割合グラフ						
	総面積	79k㎡		51k㎡		84k㎡	
	解除準備区域	18	22.8%	2	3.9%	64	76.2%
	居住制限区域	12	15.2%	0	0.0%	5	6.0%
	帰還困難区域	49	62.0%	49	96.1%	16	19.0%
	区域対象外	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
面積	津波被災地面積	2	2.5%	3	5.9%	0	0.0%
	区域面積の割合グラフ						

町村別歳入決算状況（平成21年度）

＜町の財政状況＞
 ・地方交付税に頼らざる得ない財政ではありながらも、地方税の割合も高い
 ・地方税のうち、市町村民税の割合が高い
 →町民が戻らなければ町の財政は成り立たない

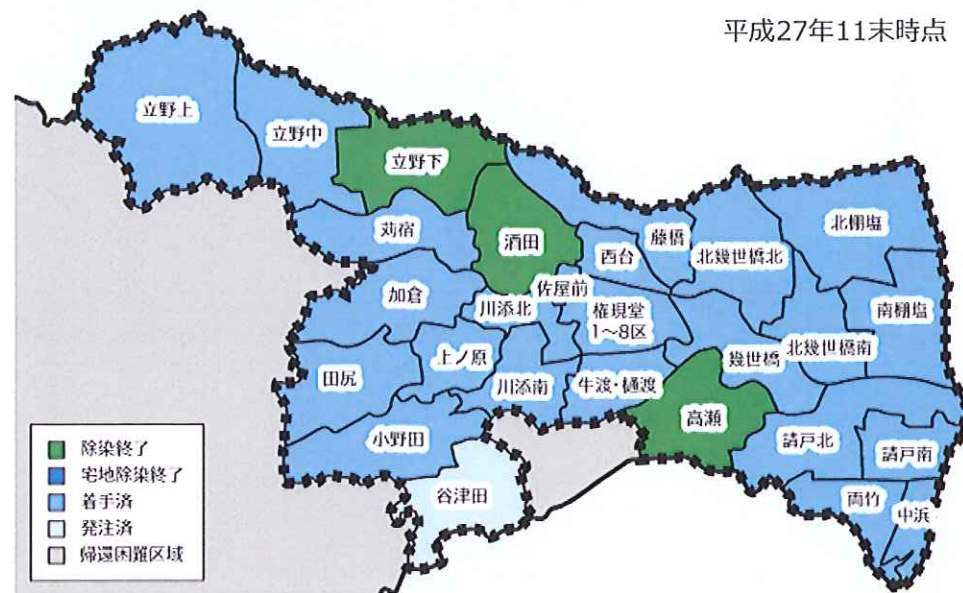
	浪江町		檜葉町		富岡町	
歳入合計	8,101,005千円		4,920,633千円		7,337,855千円	
地方税	2,039,823	25.2	2,359,207	47.9	3,189,416	43.5
地方交付税	2,465,655	30.4	112,700	2.3	423,706	5.8
国庫支出金	449,104	5.5	868,317	17.6	1,484,905	20.2
その他	3,146,423	38.8	1,580,409	32.1	2,239,828	30.5
区域面積の割合グラフ						
地方税内訳	2,039,823千円		2,359,207千円		3,189,416千円	
市町村民税	862,722	42.3	372,673	15.8	909,515	28.5
固定資産税	963,234	47.2	1,901,658	80.6	2,120,528	66.5
市町村たばこ税	169,630	8.3	47,891	2.0	115,961	3.6
その他	44,237	2.2	36,985	1.6	43,412	1.4
内訳割合のグラフ						

町村別歳入決算状況（平成21年度）

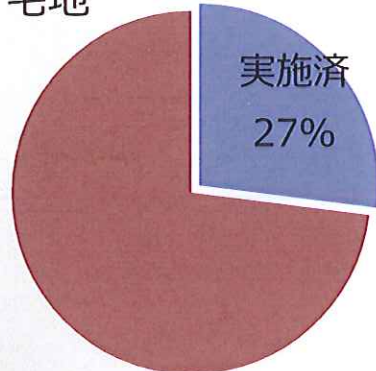
	大熊町	双葉町	葛尾村
歳入合計	7,117,441千円	5,880,871千円	1,967,448千円
地方税	3,342,155 47.0	1,839,457 31.3	112,744 5.7
地方交付税	15,232 0.2	454,919 7.7	892,116 45.3
国庫支出金	1,704,826 24.0	2,071,383 35.2	123,037 6.3
その他	2,055,228 28.9	1,515,112 25.8	839,551 42.7
区域面積の割合グラフ			
地方税内訳	3,342,155千円	1,839,457千円	112,744千円
市町村民税	880,340 26.3	366,563 19.9	36,917 32.7
固定資産税	2,352,810 70.4	1,423,382 77.4	66,093 58.6
市町村たばこ税	87,647 2.6	32,425 1.8	5,197 4.6
その他	21,358 0.6	17,087 0.9	4,537 4.0
内訳割合のグラフ			

復興の歩み 除染

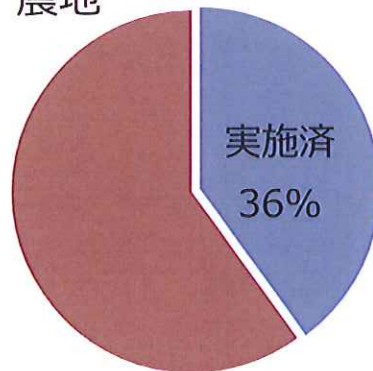
- 環境省による本格除染は平成25年11月に開始
- 除染実施対象区域（帰還困難区域を除く）の全34行政区で発注済み。うち3行政区で除染完了。



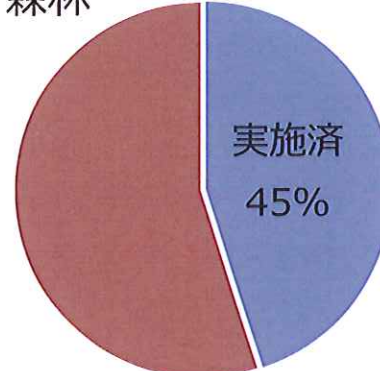
宅地



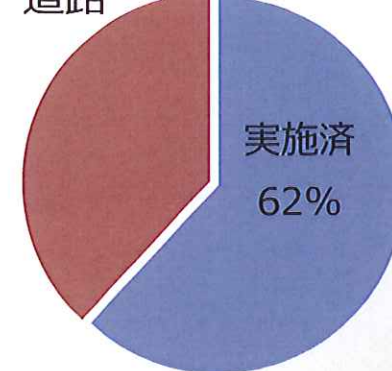
農地



森林



道路



● 実施率：除染対象の面積等に対する一連の除染行為が終了した面積等の割合（環境省ホームページより）

国直轄除染の進捗状況

国直轄除染の進捗状況②（平成27年11月30日時点）



- 除染終了・避難指示解除
- 除染終了
- 宅地除染終了
- 着手済
- 発注済

- 除染特別地域
- 帰還困難区域

除染等工事の進捗状況(実施率)は以下のとおり。
※発注率は全市町村で100%。

(単位: %)

	田村市	楡葉町	川内村	大熊町	葛尾村	川俣町	飯館村	南相馬市	浪江町	富岡町	双葉町
宅地	100	100	100	100	100	100	100	64 (52)	27 (24)	74 (68)	63 (38)
農地	100	100	100	100	97	81 (71)	48 (45)	24 (21)	36 (31)	51 (41)	56 (40)
森林	100	100	100	100	100 (99.9)	96 (90)	82 (78)	50 (49)	45 (43)	99.8 (99.6)	16 (7)
道路	100	100	100	100	91 (78)	74 (49)	40 (31)	16 (10)	62 (59)	93 (87)	6 (-)

注1) 実施率は、当該市町村の除染対象の面積等に対し、一連の除染行為(除草、堆積物除去、洗浄等)が終了した面積等が占める割合。

注2) 「除染対象の面積等」「一連の除染行為が終了した面積等」は、いずれも今後の精査によって変わらう。

注3) 二段書きの括弧内は前月時点のもの。前月からの変動がない場合は二段書きを省略。

注4) 本表の実施率の算出には、原則として帰還困難区域は含まない。

注5) 葛尾村に関しては、平成27年末までに予定していた除染作業を、予定どおり終了できる見込み。

注6) 川俣町に関しては、平成27年9月の豪雨災害で被災した農地の一部などを除き、平成27年末までに予定していた除染作業を、予定どおり終了できる見込み。

復興の歩み インフラの復旧

▽上水道：平成29年3月までに全配水管の復旧予定（津波被災地を除く）、2行政区で通水済み

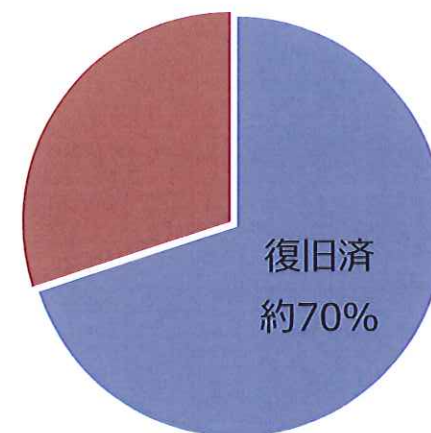
▽公共下水道：避難指示解除準備区域で平成29年3月までに復旧予定

▽常磐自動車道が全線開通（平成27年3月）
国道114号浪江インター以東国道6号までの
通行自由化

▽町道の災害復旧、津波被災地の道路改良の
ため順次災害査定中



上水道の復旧率



復興の歩み（上水道、JRの復旧）

＜上水道の復旧＞

2行政区域で通水済だが、両区域とも開栓申込は1割程度に留まっている。
また、長期の管理不能により給湯器が故障し、温水は出ない事例が多い。

- ・酒田行政区：開栓申込15件/約200件
- ・立野下行政区：開栓申込15件/約200件

→上水の安全は確認されているものの、不安は払しょくできない

JRの復旧状況

下り：小高駅～浪江駅間は平成29年4月避難指示解除を前提とした工程

上り：浪江駅～富岡駅 未定

→町民の活動範囲が狭められる

→企業誘致活動でもマイナスイメージ

早期帰還が想定される高齢者（交通弱者）は公共交通機関の再開が必須

復興の歩み 事業再開：第二次・第三次産業

被災前の事業所数：約1,000
(商工会加盟約630社)



被災によりすべてが一時営業中止



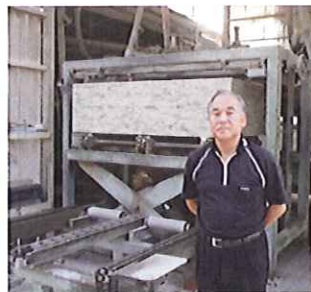
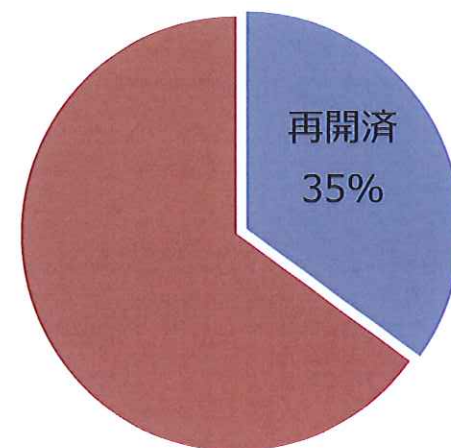
平成25年7月、2事業者が町内で初めて事業再開



平成27年12月現在、18事業者（22事業所）が
町内で再開済み、新規に1事業者が営業開始

事業者の営業再開率

(商工会加盟の事業所、町外での再開を含む)



再開事業所位置図



復興の歩み 事業再開：第一次産業

▽農業 …… 被災前の産出額：約36億円

水稻：平成26年より実証栽培を開始
全量全袋検査ですべて基準値以下

平成27年は販売を開始

野菜：平成25年より試験栽培を開始
全14品目で安全を確認

花卉：平成26年より実証栽培を開始
これまでトルコギキョウやリンドウを市場出荷



花のまち
実現化事業

▽漁業 …… 被災前の漁獲量：2,300トン超

請戸漁港の復旧は、平成28年3月までの完了を予定
相馬双葉漁協は、魚種・漁場を限定した試験操業中



新しい水産業
のデザイン
実現化事業

保全農地と仮置き場



＜保全農地の状況＞

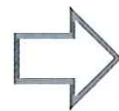
町民の努力により保全されている農地があり、実証栽培も進み復興の可視化を担っているが、試験作付田に隣接して仮置き場が設置

→復興に期待しながらも、複雑な心境



復興の歩み 学校教育

町内 6 つの小学校と
3 つの中学校に約1,700人



避難先の全国350の小学校と
220の中学校に約1,340人

- 平成23年8月に浪江小・浪江中が再開（二本松市内）
- 平成26年4月に津島小が再開（浪江小と合同授業）
⇒ 3校あわせて現在36人が在学中
- 平成24年度、浪江小に郷土を愛する心を育む「ふるさとなみえ科」を創設



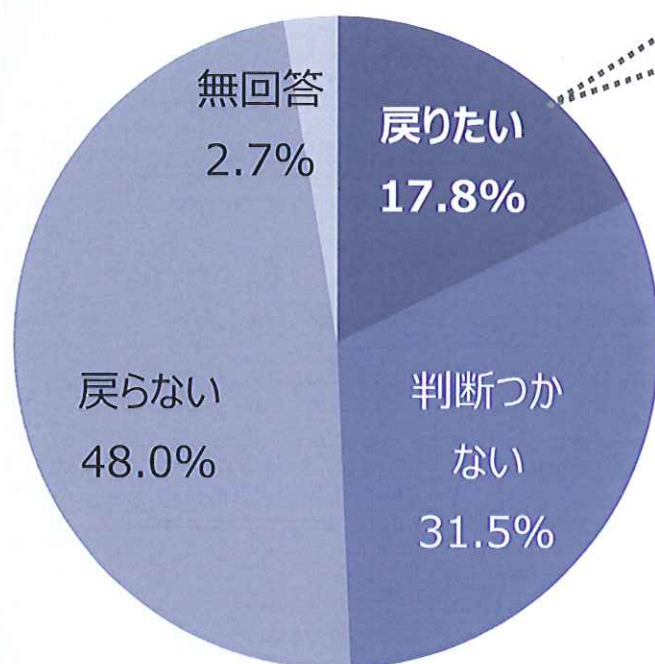
小中学校・在籍数

町村名	小中学校の別	H22.4.1現在		H27.4.1現在	
		学校数	①在籍数(人)	②在籍数(人)	①に対する割合
浪江町	小学校 合計	6	1,162	14	1.2%
	中学校 合計	3	611	22	3.6%
檜葉町	小学校 合計	2	432	79	18.3%
	中学校 合計	1	255	64	25.1%
富岡町	小学校 合計	2	936	16	1.7%
	中学校 合計	2	550	23	4.2%
大熊町	小学校 合計	2	756	68	9.0%
	中学校 合計	1	371	44	11.9%
双葉町	小学校 合計	2	344	6	1.7%
	中学校 合計	1	208	10	4.8%
葛尾村	小学校 合計	1	68	10	14.7%
	中学校 合計	1	44	11	25.0%

<児童・生徒の在籍状況>
 バラバラに避難せざるを得なかったことから、在籍率が低い
 →町の将来を担う子ども(子育て世帯)の帰還は難しい…

復興まちづくりの考え方

避難指示解除後の帰還意向



調査の概要

- ・調査対象 世帯の代表者 9,537世帯
- ・調査時期 平成27年9月
- ・回収数 5,703世帯
- ・回収率 59.8% (前年度59.5%)

■ すぐに ■ いずれ ■ 無回答

33.7%

58.7%

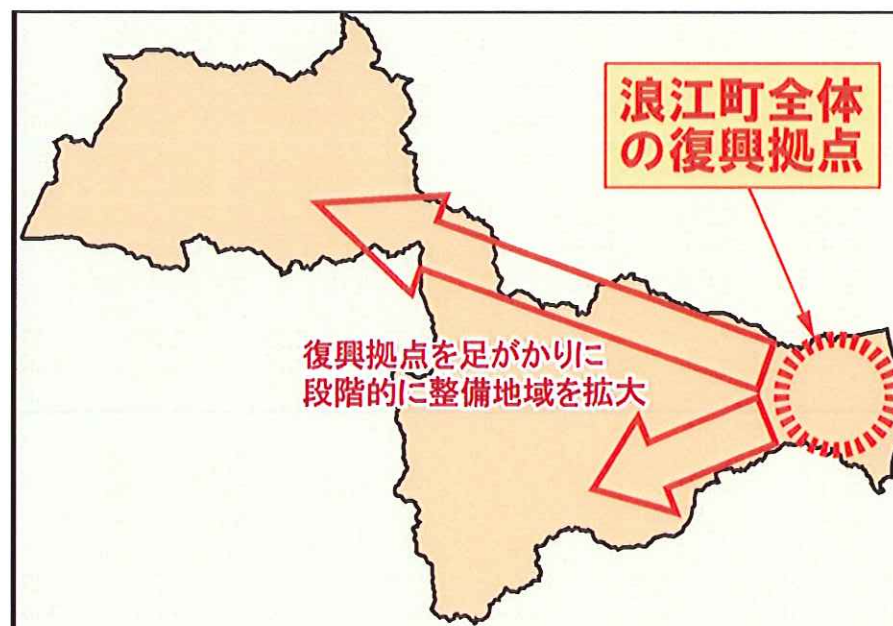
7.6%

『復興まちづくり計画』（平成26年3月策定）

▼避難指示解除直後の町内人口の想定：

2,500世帯5,000人

（町外と2地域居住する世帯を含む）



帰還意向調査の推移

＜平成27年度の帰還の意向＞

・「すぐ戻る」「戻らない」は横ばい

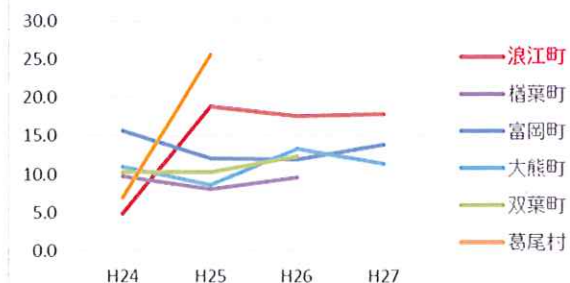
・「今はまだ判断できない」が前年より約7ポイント増加

→復興の可視化による帰還への期待の半面、不安もある複雑な心境

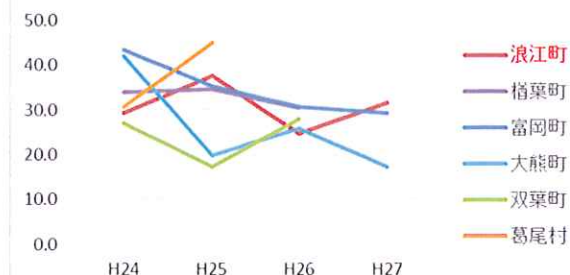
(単位：%)

	アンケート 集計年度	すぐ戻る	条件が整え ば戻る	今はまだ判 断できない	戻らない	無回答
浪江町	H24	4.9	34.3	29.4	27.6	3.8
	H25	18.8		37.5	37.5	6.2
	H26	17.6		24.6	48.4	9.5
	H27	17.8		31.5	48.0	2.7
楢葉町	H24	9.7	33.1	34.0	22.3	0.9
	H25	8.0	32.2	34.7	24.2	0.9
	H26	9.6	36.1	30.5	22.9	0.8
富岡町	H24	15.6		43.3	40.0	1.1
	H25	12.0		35.3	46.2	6.5
	H26	11.9		30.7	49.4	8.0
	H27	13.9		29.4	50.8	5.9
大熊町	H24	11.0		41.9	45.6	1.4
	H25	8.6		19.8	67.1	4.5
	H26	13.3		25.9	57.9	2.9
	H27	11.4		17.3	63.5	7.8
双葉町	H24	10.3	28.4	26.9	30.4	4.1
	H25	10.3		17.4	64.7	7.5
	H26	12.3		27.9	55.7	4.1
葛尾村	H24	7.0	32.6	30.7	27.1	2.6
	H25	25.6		45.0	23.9	5.5

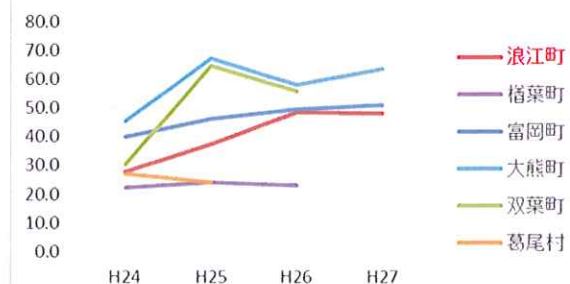
すぐ戻る



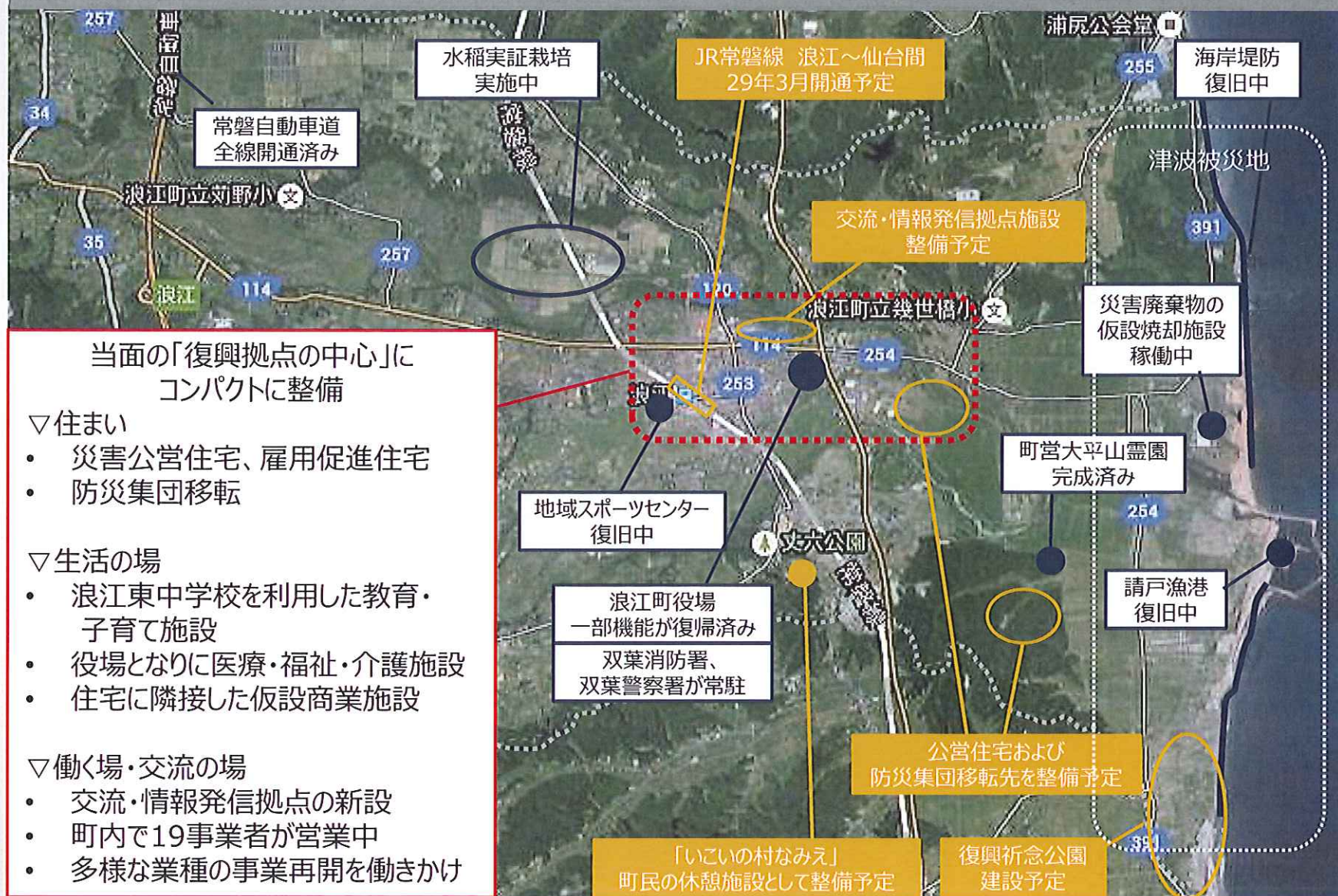
今はまだ判断できない



戻らない



復興まちづくり（復興拠点）の現状



復興の歩み 目指す姿：双葉郡北部の復興拠点を担う

- ✓ 原子力エネルギーに依存しないまちづくり：再生可能エネルギーを活用し、少ない電力を効率的に利用（スマートシティ）
- ✓ 新しい農林水産業のデザイン
 - ・ 既存の農林水産業の再生
 - ・ 先端技術を活用した花卉栽培や施設園芸の導入
 - ・ ロボットなどを活用した新しい農業スタイルの実証
 - ・ CLT（直交集成板）など新技術の導入
 - ・ 木質バイオマス利用施設の導入 …など
- ✓ 防災対策・防災研修拠点、防災ロボット開発拠点
- ✓ 原子力災害の教訓知見の継承・世界へ発信するためのアーカイブ拠点



国の「イノベーション・コースト構想」とも融合するまちづくりを通して
双葉郡全体の復興に寄与します